

第4学年 社会科学学習指導案

い組 男子 19名 女子 19名 計 38名
指 導 者 藤 崎 智 大

1 小単元 気持ちよいくらしのために

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、前単元の学習で、日常生活に必要な飲料水の確保についての対策や事業を調べることを通して、これらの対策や事業は、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を図るために計画的・協力的に進められていることをとらえてきている。このような学習をしてきた子どもたちは、他にも地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を図る働きがあるのではないだろうかという関心を持ち始めている。そして、実際に見学して詳しく調べたり、図や表にまとめたりして、その働きが地域の人々の生活に果たす役割を追究したいという意欲も高まっている。

そこで、本小単元では、清掃工場などの施設を見学したり、そこで働く人々から聞き取り調査をしたりする活動を通して、ごみ処理の事業や対策が人々の健康で衛生的な生活のために、計画的に行われていることをとらえさせようとするものである。さらに、ごみの出し方や、ごみが処理されたり再利用されたりする様子などについて、見学したり調査したりして分かったことを絵図や文で表現する中で、健康で衛生的な生活や町づくりをしようとする人々の働きについて関心をもつとともに、ごみの処理が市と地域住民の協力によって行われていることをとらえ、自分に何ができるかを考えられるようにするものである。

このような学習は、火災や交通事故から人々の安全を守るための関係諸機関の働きやそれに従事する人々の工夫や努力を追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

鹿児島市では、北部清掃工場や横井埋め立て処分場、リサイクルプラザ、南部清掃工場で計画的に大量のごみを処分している。鹿児島市の家庭から出るごみの量は、平成13年度までは増えていたが、古紙類や、プラスチック容器類の分別収集が始まって、平成14年度からは減少傾向にある。また、ごみの資源化率は、年々増加傾向にあり、平成21年度は19.5%となっている。さらに、ごみに対する法の整備や市民の意識調査から、ごみの減量化に対する市民の意識は高まってきている。

そこで、ここでは、清掃工場でのごみ処理の様子やごみ処理に従事する人々の工夫や努力、ごみを資源として活用する工夫を取り上げ、施設・設備の写真や図、ごみの量の変化のグラフなどと関連付けながら考えさせていきたい。そして、ごみ処理の問題点や対策を調べる活動を通して、身の回りのごみの減量に子どもの意識が向かうようにさせたい。

そのために、まず家庭や学校で出るごみについて話し合わせ、私たちが生活していく中で様々な種類のごみが出ることをとらえさせる。そして、家庭でのごみ調べや市のごみの量の移り変わりから、どのように処理されているのかという問題意識をもたせるようにする。次に、一人ひとりの予想を基に、追究する計画を立てさせ、**ごみステーションや清掃工場の見学や観察を通して、追究させることにする。**その際、ごみは清掃工場で処理されていることをとらえさせ、ごみ処理の仕方、地域の人々の工夫や努力、ごみを資源として活用する工夫を追究したいという意識を高めたい。そして、**自分なりに調べたこと考えたことをグループで新聞に論述させたり**、学んできたことを基に、ごみ処理に対する市の働きと自分たちとの生活とを関連付けて考えさせたりして、健康な生活や良好な生活環境の維持向上についての見方・考え方を深めていくようにする。また、市がごみの減量を進める理由を基に、ごみを減らすために自分にできることはないか話し合わせることで、自分と地域社会とのかかわりについての見方や考え方を深めていくようにする。このような学習を通して、子どもたちは自分たちのくらしとごみ処理の対策や事業との関係が分かる楽しさを味わいながら、観察力や表現力を高めたり、地域社会の一員としての自覚を高めたりすることになる。

の協力が不可欠であることをとらえさせる。そして、これまで学んできたことを生かして、ごみの減量化への意欲を高め、「自分たちにもできることがありそうだ。」「実際にやってみよう。」という実感から、自分も地域社会の一人であるという自覚を高めていきたい。

3 目標

- (1) 健康で衛生的な生活や町づくりをしようとする人々の働きに関心をもち、学習を振り返りながら主体的に取り組むことができる。
- (2) 自分たちの生活や産業とごみの様子、またそれらに関わる人々の願いとを関連付けながら考え、表現することができる。
- (3) ごみ集積所や清掃工場の様子について、それぞれの特色や工夫、苦労などの観点を明確にしていくために、分かったことを絵や文にまとめたり、調べたことを基に話し合ったりすることができる。
- (4) ごみ処理や資源物の再利用は計画的に行われており、人々の健康で衛生的な生活や良好な生活環境を支えていることを理解するとともに、ごみ処理には、市と地域の人々の相互の協力が必要であることに気付くことができる。

4 指導計画（全18時間）

学習過程	主な学習活動	学び合う喜びや楽しさの深まり	教師の働きかけ
つかむ ① 立てる ① 調べる ② まとめる・広げる ④	1 家庭や学校から出るごみの種類や量について話し合う。 2 調べたことや疑問に思ったことから学習問題を設定する。 わたしたちが出したたくさんのごみは、どうなるのだろうか。 3 学習問題に対する予想を基に、調べる内容や方法について計画を立てる。 4 家庭や学校から出るごみの処理の様子について調べる。 5 清掃工場見学の計画を立てる。 6 清掃工場に見学に行く。 ○ 燃やせるごみ、燃やせないごみ、資源ごみの処理の仕方 ○ 清掃工場で働く人々の工夫や努力 ○ 資源として活用する工夫 7 見学のしおりに基に、分かったことや発見したことを整理しグループで新聞を作る。 健康で気持ちよい生活の維持と向上 清掃工場の働き、働く人々の工夫や努力、資源として活用する工夫 計画的、協力的な対策や事業 8 グループの発表を基に、分かったことについて話し合う。 (1) ごみ処理の仕組みと清掃工場働く人々の工夫や努力 (2) 資源として活用する工夫 9 学習を振り返り、ごみ処理と気持ちよいくらしの関係についてまとめる。 わたしたちのくらしの中からでるごみは、ごみ処理場などで、人々が協力をしながら計画的にしよりにされている。 10 ごみ減量のための市の取り組みを調べ、自分たちにもできることを話し合う。(本時) 11 自分なりに実践してみたことを発表し合う。	学校や家庭からは、どんなごみが出てくるのかな。 実際に調べてみると、いろいろなごみがたくさん出ているな。 市全体では、ものすごい量だな。どこでどのようにして処理しているのかな。 決められた日にごみステーションに出され、清掃工場に運ばれていくんだな。 清掃工場はどんな仕組みになっているのだろうか。 清掃工場はたくさんのごみを処理するために、いろいろな設備をそろえているんだな。 清掃工場の人たちは、ごみを減らすための様々な工夫や努力をしているんだな。 ごみを資源として活用することは、ごみの量を減らすことにつながるんだな。 清掃工場の人たちのおかげで安心して生活できるんだな。 市では、ごみを減らすために様々な取り組みをしているな。 健康で気持ちよいくらしのために、ごみを減らすことが大切だな。 ごみを減らすために自分にもできることに取り組んでいこう。 やってみたいわーっていいんだな。これからもやってみようかな。	◎ 実物（教室一日のごみ） ○ 学校や家庭でいろいろなごみが出されている事実を把握させるために、教室一日分のごみを提示し、感想を話し合わせる。 ◎ 表（各家庭の1週間のごみ調べ） ◎ グラフ（市のごみの量の移り変わり） ○ 「こんなにたくさんのごみは、どのように処理されているのか。」という、問題意識を持たせるために、1週間のごみ調べの結果や市のごみの量の移り変わりのグラフを基に話し合わせる。 ◎ 写真（学校のごみステーション） ○ 子どもたちの予想を基に、「ごみ処理の仕方」、「清掃工場働く人々の工夫や努力」、「資源として活用する工夫」の柱で追究させるようにする。 ○ ごみ集積所やごみ収集車で働く人々の観察から抱いた問題意識を基に、清掃工場の視点を明確にして調べさせる。 ○ 追究の柱に対する自分たちの考えを明確にさせるために、見学のしおりに記入したことを基に、グループで絵や図、文などでまとめさせる。 ○ ごみ処理の施設が環境に配慮されていることをとらえさせるために、写真や図を基に話し合わせる。 ◎ 写真（燃焼ガス冷却設備） ◎ 図（空気・排ガスの流れ、蒸気・覆水の流れ） ○ 生活の中から出てくるごみの処理が計画的・協力的に行われていることに気付かせるために、調べてまとめたことを発表させる。 ◎ 写真（埋め立て処分場） ○ これからの自分の行動を考えさせるために、ごみを減量するための市の取り組みを明らかにさせることで、地域住民による協力の必要性について目を向けさせる。 ○ 実践したことを発表する場を設定し、地域社会の一員としてよりよい生活を送ろうとする意欲をもたせる。

5 本時 (16 / 18)

(1) 目標

ア ごみの減量の必要性について、ごみ減量化を進める市の取り組みとわたしたちの生活とを関連付けて、意欲的に追究することができる。

イ ごみの減量化を進める市の取り組みを調べたり、ごみの増加によってわたしたちの生活がどうなるかを話し合ったりする活動を通して、ごみ処理の費用や施設の問題について理解し、ごみを減量するためには地域住民一人ひとりの努力が必要であることに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、ごみを減らすためには、地域住民一人ひとりの努力が必要であることをとらえさせるために、市がごみの減量化に取り組む理由を取り上げ、埋め立て地の問題やごみ処理の費用の問題と自分たちの生活とを関連させながら考えることにより、わたしたちにとって切実な問題だと気付かせたい。

(3) 実際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の追 究 問 題 の 究 明 ま と め	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 なぜ、鹿児島市はごみをへらそうとしているのだろうか。	(分)	㊦ ポスター(ストップイー) ○ 追究問題を具体化するために、市のごみ減量運動のシンボルキャラクターを提示し、「何のために作られたキャラクターなのか。」と問いながら話し合わせるようにする。 ○ 確かな見通しをもった追究ができるようにするために、学習の進め方や資料を明確にする。 ○ 根拠を基に話し合わせるために、どの資料から何が分かったのかを発表させる。 ○ ごみ減量化が切実な問題だととらえさせるために、市の減量化に取り組む理由とわたしたちの生活との関係を話し合わせる。 ○ 処理費用の大きさをとらえやすくするために、処理費用で子どもたちの身近なものがどのくらい購入できるかを知らせる。 ㊧ グラフ(市のごみ処理にかかる費用) ㊨ 図(処理費用で購入できるものの例) ○ ごみ処理の問題をとらえさせるために、燃えないごみの処理の仕方に着目させ、今後、埋め立て地がどうなっていくかを話し合わせる。 ㊩ 写真(埋め立て地) ○ ごみの増加と自分たちのくらしが密接に関係していることをとらえさせるために、「ごみが多いなかで、暮らせばどうなるか。」と問いかけ、考えさせるようにする。 ○ 市や地域住民の取り組みに対する関心を高めるために、ごみ減量化に向けた地域住民の取り組みを紹介する。 ㊪ 写真(フリーマーケット)
	2 学習の進め方や資料について話し合う。 ・グループでの話し合い→全体での話し合い ・のびゆく鹿児島、見学メモ、パンフレット	7	
	3 ごみを減らす理由について調べ、話し合う。 (1) ごみの減量化のための市の取り組みについて話し合う。 (2) 自分たちの生活とのつながりについて話し合う。	30	
	4 本時の学習についてまとめる。 市は、わたしたちのけんこうで気持ちよいくらしのために取り組んでいるので、わたしたちも努力してごみをへらす必要がある。	8	
5 次時の学習について話し合う。			